認知症高齢者グループホーム愛里須
（別紙4）　　平成　29　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0972501035		
法人名	特定非営利活動法人　フロレンス那須		
事業所名	認知症高齢者グループホーム愛里須（ユニット　あい棟）		
所在地	栃木県那須郡那須町大字寺子乙4402-2		
自己評価作成日	平成29年12月27日	評価結果市町村受理日	平成30年4月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1－10－6
訪問調査日	平成30年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

認知症対応型グループホームとして、地域密着という事で近くの中学校と関わりをもったり、地元のボランティアグループを多数受け入れ、利用者が多くの住民と交流を持てるように力を注いでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、町役場や図書館、学校等の公共施設が集まる町の中心部にあり、利便性に富んだ環境にある。利用者が安心して楽しく笑顔で過ごせるように、職員は常に丁寧な言葉掛けで、心を配って支援にあたっている。元料理人の調理スタッフを中心に毎食手作りする食事と、職員宅で採れた果実のジャムや自家製ヨーグルトなどの食材を取り入れたおやつは利用者の楽しみとなっている。季節の行事食やおやつ作りを楽しんだり、食の時間全体が楽しいひとときとなるよう支援している。行事や家族来訪時には写真撮影し、写真毎にコメントや装飾を加え、一人ひとり世界にたった一つのオリジナル思い出アルバムを作っている。折に触れ見返して懐かしんだり、家族との話題にするほか、退所時には家族へ送り、アルバムを通して事業所で過ごした日々を共有できるよう工夫している。職員教育・人材育成を重視し、職員のスキルアップのための研修参加、資格取得などにも力を注いでいる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念を唱和し、また常に見えるところに理念を掲示していることで、職員全員が理念を共有し意欲的に実践している。	職員は、「人を尊重し、人に感謝をし、人に真心で接する」という理念を毎日唱和して共有し、常に意識している。丁寧な言葉使いと笑顔を大切に日々の支援にあたり、常に利用者を尊重した対応に努め、理念を実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃のあいさつに始まり、地域の一員としての姿勢で、地域の行事に参加し、交流できるように支援している。	地域の祭りや落語、カラオケ大会などの催しへ積極的に足を運んでいる。新蕎麦の季節には自治体が手作り蕎麦を届けてくれるなど、地域交流が盛んである。プロのサックス奏者や傾聴ボランティアの訪問、近隣小中学校との関わりは、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座などを開き、認知症の理解、支援の方法などを地域の人々に向けて、気軽な相談から積極的に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、民生委員、地域住民などの外部からの貴重な意見をサービスの向上に活かしている。	町保健福祉課職員、地域包括支援センター職員、家族、地域住民、民生委員などが参加し2ヵ月に1度開催している。利用状況や利用待機数、行事や日々の活動報告、制度改正や季節など旬の話題を取り入れながら、情報・意見交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の介護保険係や地域包括支援センター、社会福祉協議会と連携し、情報交換をしながら協力関係を築き、那須町のために積極的に取り組んでいる。	町保健福祉課介護保険係とは運営推進会議の他、必要に応じ電話やファックスにて連絡・情報交換を行っている。町主催の研修会にも積極的に参加している。町社会福祉協議会とも情報交換し、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内研修を設け、職員一人ひとりが拘束をしないケアについて確認し、真剣に取り組んでいる。	身体拘束について、毎月の職員会議で取り上げたり、新人入職時に内部研修を行い、全員がよく理解している。普段と違う様子が見られるなど利用者の小さな変化や些細な気付きを職員間で共有し、見守りを重視することで、拘束をしない安全なケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職場内研修を設け、いかなる場合も虐待は、いけないことを職員に徹底し、虐待のない事業所として取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内研修を通じ、全職員が学べる機会が持てるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項説明書の説明を丁寧に行い、十分に納得いただいてから契約に至るよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の家族等の来苑された機会、又は運営推進会議において、意見を頂き参考にさせていただいている。	毎月の支払い時など、家族の訪問があった際に話す機会を設け、意見を吸い上げ、運営に反映させている。遠方の家族にも毎月の請求書と共に写真を送り日々の様子を伝えたり、電話で話したりと、情報交換を行い、意見・要望をくみ取るよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の打ち合わせ、また毎月の職員会議などで積極的に意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	毎月の会議前には全職員が個別に振り返りを行い書面にまとめ、その内容をもとに話し合っている。日頃から何でも相談しやすい関係作りに努め、意見や提案はその都度検討し、全職員で共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長、施設長が常日頃から職場の環境に注視している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格取得などの支援をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設との交流も増えてきており、サービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、じっくりと話し合いを持つことによって本人の思いを理解し、安心できるような信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、じっくりと話し合いを持つことによって家族の思いを理解し、不安を感じさせないよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、しっかりとアセスメントし、何がまず必要かを見極め、対応に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人のできる事、できない事を把握し、暮らしを共にする者として、できる限り協力して行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人を支えていく上で、職員・本人・家族の絆を大切にしながら、家族と共に同じ思いで取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人などの面会の度、一緒に写真を撮りアルバムに収め、いつでも見られるように取り組んでいる。	家族や趣味仲間だった友人が遊びに来るなど、馴染みの人の訪問は多い。来所時には一緒に写真を撮り、その当時を楽しく振り返ることができるよう工夫を凝らし個別の思い出アルバムにまとめる支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はできるだけフロアで過ごして頂き、利用者様同士が関わり合い、関係を深められるよう取り組んでいる。又、利用者同士の相性も考慮し努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した方との関係性も大切にし、必要に応じて相談や支援も行えるように取り組んでいる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からコミュニケーションを取りながら、一人ひとりの思いや意向の把握に取り組んでいる。	見守りや傾聴に努め、会話が困難な場合にも常に声かけをし、表情や行動などから思いをくみ取るよう努めている。険しい表情など様子の変化が見られる場合には、生活歴や経験などを振り返り考察している。職員間で情報を共有し、本人が安定・安心して笑顔で過ごせるよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や家族が来所された時に、これまでの生活歴や生活環境を聞き把握に取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が一人ひとりの利用者様の現状が把握できるように情報共有のしくみを実践している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時に意見を聞いたり、月１回の職員会議での意見を参考にしながら介護計画を作成するよう努めている。	介護計画は6ヵ月に一度の見直しを基本とし、3ヵ月毎のモニタリングと、変化があればその都度見直している。家族意見や職員会議での意見を参考に作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様々な種類の個別記録をもとに、日々の様子や気づきを介護計画の見直しに十分活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の作った枠組みにとらわれず、臨機応変に、ご本人に最適なサービスが提供できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町主催のイベントを中心に、積極的に地域資源を利用し、楽しい生活が送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は原則として本人及び家族の希望を尊重し、事業所として、その医療機関と信頼関係を築きながら支援している。	以前からのかかりつけ医への定期的な受診は家族に付き添いをお願いしている。予防接種や定期受診の他に緊急時の往診が可能な協力医へ変更する方も多い。突発的な受診が必要な場合には医師と連携を取りながら職員が対応し、適切な医療に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者様の身体状況を確認し、変化があった際は、すぐに看護職に報告し、早めの対応に取り組み連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の同行、入院中の面会、家族との連絡を密に取り合い、直接医者より話を伺ったり、情報交換をして、より良い関係作りに取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院先の医療チーム、当ホームの協力医療機関、ご家族様とよく協議し、話し合いを重ね、良好な関係を構築している。	利用開始時に、事業所としての方針を説明し、本人や家族の希望を確認している。治療の必要がなく状態が安定している場合には、協力医と連携し看取りも行っている。医療が必要となる場合は病院搬送や特別養護老人ホームなど本人の状態に適した別施設の紹介を行い、安心して最期が迎えられるよう終末期支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに沿って実践できるようにし、定期的に研修を行い職員一人ひとりの技術を身につけていけるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っている他に、夜勤者2名での模擬訓練を毎月行い、消防署や近隣との協力のもと、万が一の災害に備えている。	年2回消防立会いの防災・消火訓練と毎月夜間想定の模擬訓練を行い、全職員が緊急時の対応を身につけている。消防署も近く、近隣に住む職員から順に駆けつける体制を整えている。食料等の備蓄は近隣の理事長宅に常備している。	内部での災害対策、緊急時体制は整っているが、更なる備えとして、より安心安全に繋がるよう、近隣住民との繋がりを深め、有事の際の協力関係を構築できる顔見知りの関係作りに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活環境をよく把握し、言葉遣いなどに気を付け、人格の尊重を優先し生活援助に取り組んでいる。	親しみを込めた声かけをする場合にも言葉遣いに配慮し丁寧語で、目線の高さを合わせて話しかけている。入浴の同性介助や、失禁時の対応もプライバシーに配慮している。書類保管や広報誌の掲載など個人情報の取り扱いにも十分注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で常に利用者様の意思表示を促す声かけをし、自己決定ができるように職員全員がしっかりと働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の都合を優先することなく、その人らしさにこだわり、個々のペースに合わせた生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分や季節、天気によっておすすめしたり、本人の希望に合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食メニューを公表し、それを話題にしたり、できる範囲で調理、片付けなどの手伝いをして頂き、楽しみながら行っている。	調理専門職員を中心に職員が手作りし、刻み食やミキサー食等、個々に合わせて提供している。残存機能を活かせるよう、食器拭きやおやつ作りを共に行ったり、職員も共に食卓を囲み会話を楽しんでいる。手作りおやつでのお茶の時間や季節の行事食など、食を楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の食事や水分の摂取量を記録し、変化があれば、すぐに話合いを持ち、常に栄養や水分の摂取に気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、必ず仕上げは職員がお手伝いさせて頂き、清潔保持できるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを常に把握できるように排泄チェック表をつけ、トイレでの排泄ができるように支援している。	個々の排泄パターンを把握し、本人の訴えや仕草などの様子を見ながら声かけし、トイレへ誘導している。夜間はポータブルトイレの使用など身体機能に応じた工夫・配慮をしながら、基本はトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容、運動などを考え、そして毎日手作りのヨーグルトを摂取することで極力薬に頼らないように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく、事業所側の都合と利用者様の希望が合うように時間帯を調整し、より楽しく快適に入浴できるような支援をしている。	週2～3回午後の時間帯に、1対1での入浴支援を基本としている。入浴剤の使用や同性介助、毎日の入浴等、個々の希望に沿った対応をしている。拒否がある方にも時間をおいて声かけするなど工夫し、無理強いすることなく本人のタイミングで入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息や夜の睡眠に対して、個々の生活のリズムを尊重し、その方に合った休息が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職の指導の下、個々の薬の内容が確認できるようになっており、職員一人ひとりが把握し適切な服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った役割やレクリエーションなどを行い、張りのある生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	活動予定以外にも天気の良い日など外出する機会を多く設け、気分転換ができるよう積極的に支援している。	庭で散歩やひなたぼっこをしたり、天気の良い日はドライブに出かけている。ファストフード店や道の駅に出かけることもあり、季節の景色を楽しみながら、希望や気候に合わせて日常的に外出の機会を多く設けている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々にお金を所持し、買い物をすることは殆どないが、お金を所持していることで不安を解消できる方は、少しだけ所持して頂き対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って電話の支援をしたり、便せんや封筒を用意し、やり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく開放感のある空間になっており、季節感やその時期の行事などが感じられる物を飾るなどし工夫している。	庭に面した大きな窓のあるリビングで2ユニットが繋がっており行き来が自由にできる。事務所や台所、小上がりの和室も、回廊式の廊下で室内全体がどこからでも見通せる作りとなっており、開放的で明るい。トイレや浴室はドアの色と電灯により認識しやすい工夫を施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれたり、気の合った利用者様同士で過ごせる事はもちろん、ユニット間の隔たりを無くすことで、より自由に過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた物を自由に持ち込み、利用者様が居心地よく過ごせるよう工夫している。	エアコン、クローゼットまたは押入、カーテンが備え付けである。ベッドやテレビ、箪笥、仏壇、植物の鉢植え、趣味の作品など、各々使い慣れた物や思い出の品、福祉用具等を持ち込み、好みや馴染みの物に囲まれたその人らしい空間となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりの持っている力に合わせ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるような環境を作っている。		